



エンボディチェア (Embody Chair)

エンボディチェアは、身体の自由な動きをサポートし、脳の活性化を促す初めての高機能ワークチェアです。デザイナーは、高機能ワークチェアの象徴的存在となった「アーロンチェア」のデザイナー、故ビル・スタンフ (Bill Stumpf) と、事務所のパートナーであったジェフ・ウェバー (Jeff Weber) です。6年間の開発期間を経て、2008 年 10 月にドイツで開催されたオルガテック (国際オフィス家具見本市) で発表されました。

人は今、コンピュータ等多くのテクノロジーに囲まれていて、時として人間よりもテクノロジーが優先される環境にいます。多くの人がコンピュータに向かい、手と目のみを酷使し、動かないで長時間座り続けています。これは、身体に負荷がかかることで、このような問題を解決するために、エンボディチェアはデザインされました。ハーマンミラーは、1970 年代半ばより、人間工学に基づいたワークチェアの革新を続けてきましたが、「エンボディ」はその名のとおり、ハーマンミラーが今まで培ってきたシーティングの知識全てを体現 (embody) しています。

エンボディチェアの革新性

狭い背もたれ: 幅が狭い背もたれは、腕の自由な動きを妨げません。

ピクセル構造: 背もたれと座面には、ハーマンミラー独自の新しい素材構造「ピクセル構造」が採用されています。ピクセル状の細かいマトリクスが体型や姿勢の変化によって絶えず変化する動的な面をつくり、体圧を分散させます。背もたれは 2 層、座面は 3 層の構造です。

バックフィット調節: 「バックフィット調節」は、背もたれを人によって異なる背骨のカーブに合わせます。最適化された姿勢により、頭を上下に動かし無理に視線を合わせることなく、コンピュータ画面を見ることが可能です。

エンボディチルト: 「エンボディチルト」は、新しい運動学を採用しており、座る人が最も好ましい姿勢になるように自然に動きます。やや前のめりになっても、背もたれによりかかっても、骨盤が後方に回転することなく自然な位置になるようサポートします。

キッカー: 背もたれに寄りかかり、さらに背上部に体重をかけると「キッカー」によってさらなる動きが生まれます。首、肩、腰椎を伸ばし、オフィスでも起こりうる深部静脈血栓症 (エコノミークラス症候群) を回避します。

1 サイズ: ひとつのサイズで成人の 98 パーセントの人に適合します。

エンボディチェアは、上記の革新的な機能により、人が座りながらも自然に自由に動くように促します。肺に酸素を多く取り込み、血流が改善され、脳への酸素供給量を増やし、結果、脳の活性化を促します。新しいアイデアを生み出すことで企業競争力を高める現代社会において、脳が活性化されることは重要です。

エンボディチェアは、人の骨や動きにインスピレーションを得てデザインされています。全ての形状は機能を表しています。

環境にも配慮した製品であり、ビル・マクダナーとマイケル・ブラウンガートが提唱する完全循環型の設計ガイドライン「ゆりかごからゆりかごへ (Cradle to Cradle)」の銀賞を受賞。

米国環境基準のグリーンガード (GREENGUARD) 認定を取得しています。42% 再生素材を使用し、95% リサイクル可能な素材です。

通気性の良いファブリックは、全部で 28 色、ベース 3 色、フレーム 2 色の組み合わせから選ぶことが出来ます。税込価格は、187,950 円～253,050 円。12 年間の品質保証 (ガス圧シリンダーは 2 年間)。

